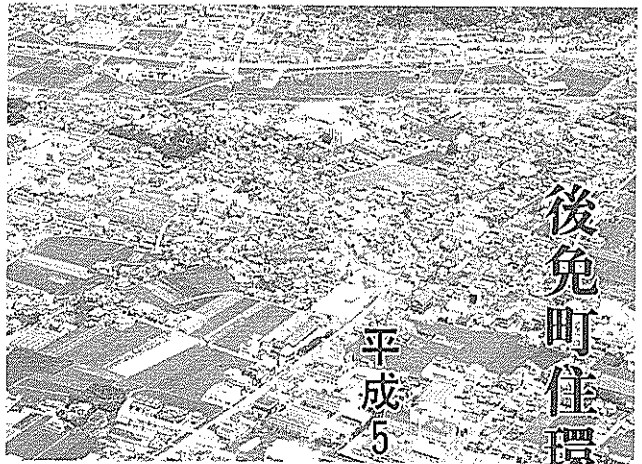


後免町住環境整備



答申出される

平成5年度着手に向けて取り組み

を適用して課題の解決を図る。

大学教授や国、県、市の関係者、コンサルトらによる後免町コミュニティ住環境整備事業調査作成委員会（三村浩史委員長）が発足。先進地の視察や討議を重ねてきました。

〇計画されている南国駅前線、高知南国線を考慮し、地区内の区画道を整備する。

〇地域の交流や潤いを作り出すため、児童公園や緑地、公民館などを整備、舟入川をシンボルとして、街に親水性を持たせる。

市がかねてより進めていた後免町コミュニティ住環境整備事業に関する答申がこのほどまとまりました。

これは、建物の老朽化や密集、狭い道路など、その住環境や商業環境から沈滞化した後免町の活性化を図り、「まほろばの里」南国市の顔である中心市街地を形成しようと、行政と地元が呼応しながら、昭和六十三年から進めていたものです。

同年八月には地元住民による後免町まちづくり推進会（西和田克美会長）が、十二月には、

〇市街地再開発事業や土地区画整理事業、コミュニティ住環境整備事業、商業近代化事業など

答申の主な内容は次のとおりです。

〇都市計画道路により、住宅の移転が必要なことなどを踏まえ、公的住宅の建設等により、良好な住環境

づくりを図る。

〇文化会館のうち、図書館、郷土民俗資料館、視聴覚センター、展示ホールなどの機能を誘致し、人が集まるまちづくりを行う。

〇情報交流広場や新鮮な野菜などが買える市場など、買物客が興味をもって回れるような商店街にする。

調査作成委員会でも導入する

事業が複雑である等の指摘があり、また今後、地元と十分に協議をしなければならぬなどの課題がありますが、かつてないほど後免町再開発の気運が高まってきており、市としては、地元の合意が得られれば、平成5年度にも事業着手できるよう検討していく方針です。

